

2018年9月実績概要(メモ)

(2018.10.18)

秋の定修の只中、エチレンをはじめ各誘導品でも減産品目が多数に及ぶ。

1. 生産動向

イ) エチレン 476,200トン

前月比 ▲ 7.8% (▲40,200トン)

前年同月比 ▲ 10.9% (▲58,300トン)

生産増減に係る諸要因	<前月比>	<前年同月比>
日数増減	▲ 3.2%	—
定修要因等	▲ 4.5%	▲ 10.3%
能力増減	—	—
稼働率変動	▲ 0.1%	▲ 0.6%
生産増減率	▲ 7.8%	▲ 10.9%

稼働プラントの実質稼働率試算：前月95.1%→ 当月95.0% ← 前年同月95.5%

定修プラント：前月1社1プラント→ 当月2社2プラント ← 前年同月なし

ロ) 主な石油化学製品

前月比では、日数減と定修規模の差からLD、PP、PS、塩ビモノマー、MMAモノマー、SBR、トルエンなどの11品目がマイナス。塩化ビニル樹脂、EO、EGなどの6品目は主に定修規模差からプラスとなった。

前年比では、定修規模の差や稼働率要因からLD、PP、PS、SM、MMAモノマー、SBR、BR、ベンゼン、トルエンなどの11品目がマイナス。塩ビ樹脂、塩ビモノマー、EGなどの6品目はプラスとなった。

2. 樹脂の生産・出荷状況(LD、HD、PP、PS)

イ) 生産

前月比では、LD、PP、PSは日数の減少と定修規模の拡大からマイナスとなった。HDは日数減と稼働率要因がほぼ見合うかたちとなり僅かながらの増加となった。

前年比では、LD、PSは定修規模の差から、また、HD、PPでは前年の稼働状況が比較的高めであったことからマイナスとなった。

ロ) 国内出荷

夏季休暇があった前月に対して、当月はユーザーサイドの営業日数の増加からLD、HD、PP、PSの4樹脂ともにプラスとなった。

前年比では、定修等に伴う生産量の減少影響から出荷の面においても制約があり、LD、HDはフィルム分野他、PPは特に射出成形分野やフィルム分野、PSでは主として包装分野の出荷がそれぞれで減少しマイナスとなった。

ハ) 輸出

輸出は、LD、HD、PPでは依然として当該月の輸出量では最低レベルの水準が続いている。前月比では僅かながら増加したLD、HDがプラス、PPはPSとともにマイナスとなった。

前年比ではLD、HD、PPでマイナス、PSのみがプラスとなった。

ニ) 在庫

在庫量は、LD、PSで減少、HD、PPは増加した。在庫率(季節調整済)は前月に対してLD、HD、PP、PSともに上昇した。在庫水準としては、LD、HD、PSはやや高め、PPは適正からタイト傾向が続いている。

	前月対比増減量 (単位:トン)	季節調整済在庫率(単位:ヶ月)	
		8月末	9月末
LD	▲ 12,300	3.2	3.4
HD	+ 13,600	3.4	3.7
PP	+ 2,400	2.7	3.0
PS	▲ 1,700	1.6	1.8